



診断参考レベル(DRL)ってなに？

～医療被ばくの適切な管理のために～

診断参考レベル(DRL:Diagnostic Reference Level)とは、医療機関での放射線診断において、患者さんが受ける放射線の線量が適切であるかを判断するための指標です。これは、過度な被ばくを防ぎつつ、診断に必要な画質を確保するために設定されています。この値は、実際に使われている放射線量を全国の医療機関で調査し、その平均的な値をもとに決められています。

X線を使った検査では、X線の量が少ないと、画像が不鮮明になり正しい診断ができなくなります。逆に多い場合は画像の鮮明さはそれほど変わらないのに被ばく線量が増えてしまいます。したがって、検査では、放射線の量を『多すぎず、少なすぎず、ちょうどいいバランス』で行う必要があります。

この『バランス』を知るための基準が“診断参考レベル”となり、この基準と自施設の値を比較することにより、適切な放射線量を確認することができるのです。

この表より、当院は基準と比べて低い線量でCT検査を行っていることがお分かりいただけるかと思います。この“診断参考レベル”との比較を定期的に行うことで放射線量の適正な管理をすることができるのです。

当院では、この基準を参考にしながら、最適な放射線量で検査を行っていますので、患者さんには、安心してCT検査を受けていただけるかと思えます。
(診療放射線技師長 大鐘 勝彦)

当院のCT検査での“診断参考レベル”との比較(2024年)

〈成人〉

	当 院		診断参考レベル	
	CTDIvol	DLP	CTDIvol	DLP
頭 部	34.8	738.5	77	1350
胸 部	5.2	214.6	13	510
胸部～骨盤	9.5	705.1	16	1200
上腹部～骨盤	10.7	589.7	18	880

〈小児頭部〉

	当 院		診断参考レベル	
	CTDIvol	DLP	CTDIvol	DLP
1 歳 未 満	22.1	397.6	30	480
1 ～ 4 歳	21.5	433.4	40	660
5 ～ 9 歳	26.8	557.3	55	850
10～14 歳	35.4	748.6	60	1000

〈小児胸部〉

	当 院		診断参考レベル	
	CTDIvol	DLP	CTDIvol	DLP
1 歳 未 満	2.6	60.0	6	140
1 ～ 4 歳	3.0	72.0	8	190
5 ～ 9 歳	4.7	131.4	13	350
10～14 歳	6.7	256.3	15	530

〈小児腹部〉

	当 院		診断参考レベル	
	CTDIvol	DLP	CTDIvol	DLP
5 ～ 9 歳	6.3	221.0	15	530
10～14 歳	9.6	406.1	18	900

CTDIvol:検査範囲全体の線量(mGy)
DLP:CT画像1枚の線量(mGy・cm)

通所支援事業の ひとコマ



通所支援では、桃の節句にむけて利用者さんと一緒に「ひな飾り」を作りました。着物の柄を選んだり、手を添えて目や口を描いたり、実習に来ていた学生さんにも手伝ってもらって、個性の香るひな飾りができあがりまし

た。中庭では菜の花が少しずつ背をのばしてきて、つぼみもちらほら…。咲くころには外気浴などできたらいいなあ、と思

た。中庭では菜の花が少しずつ背をのばしてきて、つぼみもちらほら…。咲くころには外気浴などできたらいいなあ、と思



(療育指導室長 村松 順子)

外来からのお知らせ

休 診 [眼科] 4/18(金) … 樋口(代診なし)

当院の都合で急遽休診が出ることがあります。気になるようでしたら、受診当日、当院までお問い合わせください。

